



2021年前半の主な活動

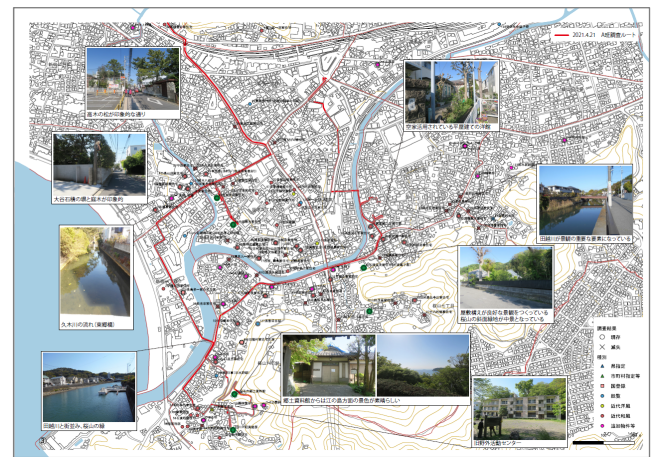
TOKYO 2020 が終わり、同時に季節も秋に代わりしました。変異株の急速な蔓延により、緊急事態宣言が月末まで延長されていますが、政府からは11月頃からの行動制限解除の情報もあり、まだまだ予断は許されない中で、それでも少しずつですが、私たちの活動も活発化できそうです。どうぞよろしくお願いたします。

2021年前半の活動

1) 逗子プロジェクト: 4/10に第2回調査を実施しました。第1回調査で確認した4つのエリアの建物から、登録の候補として選んだ8つの建物の特徴を詳しく確認し、所有者にアプローチを試みる事が今回の目的でしたが、感染拡大の中で、所有者へのアプローチは見送りました。

敷地外からの外観調査が中心になりましたが、同時にその建物が街並みの中で果たしている役割、歴史的な建物が景観の大切な要素になっていることを確認し、逗子の4つのエリアの街並みの特徴とともに調査シートとマップにまとめました。

その中で、旧陸軍池子弾薬庫設置のための強制移転先であった逗子駅北側の久木エリアでは、所有者の方のご厚意で、屋内を拝見し、かつての移転時のことなど、貴重なお話を伺う機会を得ました。このS家を含めこのエリアには、同じ移転住宅が建物群として複数棟あり、その戦前からの変わらない落ち着いた街並みを大切に遺していくために、今後さらに調査を進めたいと、逗子市の教育委員会文化財保護係と、まちづくり景観課の双方と連携を諮るべく、今年度中の報告会を企画する予定です。



久木の家並み



S家住宅



2) 秦野・伊勢原プロジェクト: 5/15 に秦野市の第1回調査を行いました。逗子プロジェクトと同様に、20年前の近代和風建築調査報告書に記載の293件のうち、140件の存在調査を行い、81件の現存を確認しました。昨年の逗子に比べて市域の広い秦野市では、その全域までの調査は出来ていませんが、市中心部とそれ以外の2つの主だったエリアの調査を行い、それぞれのエリアで景観を形成する大切な要素になっている歴史的な建物の現状を確認しました。

今回の調査は、その準備段階から地元で活動されているメンバーとその仲間の方々、秦野市生涯学習課の文化財担当官にも参加いただき、調査当日の案内役も担っていただきました。

調査終了後には、2020年2月にスキルアップ講座を行った登録有形文化財の五十嵐商店の「カフェいがらし」を会場とし、調査のまとめを行いました。調査報告をまとめ次第、報告会を秦野市に協賛いただき、所有者や地元のまちづくり活動団体の方々に行う予定です。

3) 定期総会記念レクチャー: メールで議決投票いただいた2021年度定期総会は、6/19に決議結果報告会をオンラインで行うと同時に、新たに顧問に就任された黒田泰介先生にオンラインで記念レクチャーをお願いしました。古代ローマ時代の円形闘技場遺構が後世に住居として活用されてきた歴史を学びました。

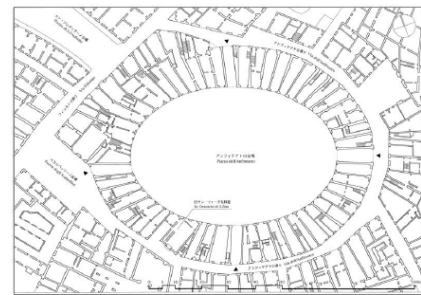
4) 養成講座再開の準備: 2014年から中断している養成講座の再開に向けて、他県や他団体での実施状況や、修了生の活動状況の把握を踏まえて準備を始めました。公的助成も受けながら、建築士会、県とも情報共有しながら進めて行く予定です。2022年度からの本格再開を目指しています。

(加部 佳治)



かながわヘリテージマネージャー協会
2021年度定期総会記念レクチャー

円形闘技場遺構の住居化から学ぶこと



講師：黒田泰介先生 関東学院大学 建築・環境学部 教授
日時：2021年6月19日(土) 15:30~16:30
レクチャー 15:30~16:15 (45分)
質疑応答 16:15~16:30

